

就任のご挨拶

4月1日付で病院長が交替いたしました。よろしくお願ひいたします。



病院長 新家 眞

平成22年4月から、前川和彦院長の後任として病院長に就任いたしました新家眞(あらいえ まこと)です。

医療を取り巻く環境はなお厳しく、その状況は日々刻々と大きく変化しています。少子高齢化社会という我が国の人口の特徴は、「社会・経済」という側面から見ても大きな課題であります。特に、「医療」という視点からみれば、疾病構造の変化は、診断・治療・疾病管理・予防医学などへの取り組みのすべての点において、医療機関の機能に多大な影響を与えています。一方、経済の回復の兆しが見えない中、診療報酬体系の改定や医療保険制度の見直しは今後も継続課題であり、医療を支える「社会保障制度」も予断を許さない状況です。そのような背景の中、病院は社会の変化に迅速に対応して、機能を充実させなければなりません。

関東中央病院は、公立学校の教職員のための医療事業を提供する職域病院として出発し、多くの組合員とそこご家族の健康管理・疾病治療に貢献してきました。その事業には、質の高い医療の提供だけではなく、人間ドックなどの健康事業やメンタルヘルス相談事業などの特徴ある内容が含まれ、全国8箇所ある公立学校共済組合直営病院の中では、最大の規模の病院であります。また、地域の住民の方にも広く門戸を明け、多くの医療機関との連携を基軸にして世田谷区内では最多病床数の中核的医療機関となっています。これは、かかりつけ医として日々多くの患者さんの心の支えとなって活動されている多くの医師の方々とご一緒に、病気と向き合う患者さんのために役立つ地域医療機関としての役割であり、是非今後とも発展維持すべき病院の顔であると考えています。

医療の役割は、人が健康を求め、疾病を癒し、生き方を大切にして自分らしく生きるための場の提供であります。その役割を十二分に果たすためには、日々進歩する医療技術や知識に対する絶え間ない研鑽、多様化した人の価値観や倫理観への理解、また、受診される方々の期待と需要の把握などの多くの学ぶべき課題があります。その課題への取り組みの結果得られる理想とする医療の実現のためには、一方で健全経営を維持するための客観的かつ冷静な分析が必要であり、又一方では常に向上をめざす医療人としての自負と誇りと絶えまぬ努力が必要です。新しく一緒に働く職員とのコミュニケーションを通して、これらの課題に一丸となって立ち向かい、より良い医療を提供できる病院であることの維持を目指し、日々努力したいと考えています。今後とも、よろしくお願ひいたします。